

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	京都府
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	京都市立常磐野小学校(学力向上フロンティアスクール)								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	3	3	1	23	34
児童数	128	133	130	127	105	103	3	729	

研究の概要

1. 研究主題

「自ら学ぶ、心豊かな子ども」を主題として、培いたい力は、  
 ・自然事象に関心を持ち進んで学習に取り組もうとする力  
 ・問題解決学習の流れに沿って主体的に学習を進める力  
 ・課題に対する自分の考えを豊かに表現する力

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

3年生、4年生、5年生、6年生・理科  
 理科に関する研究実績があるため  
 環境教育に力を注いできた経緯があり、今後、環境教育を基礎・基本の定着から発展学習へと広めていくため  
 自ら学ぶ力を育てるため  
 ビオトープを理科の学習に生かす工夫を考えていくため

6年・算数  
 習熟度別学習で基礎・基本の定着と発展学習の実践を本校では、平成6年度から実践してきた、成果があらわれてきている

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ                      課題が見つけれられる出会いの工夫と教材                      研究の見通し(仮説)                      子どもたちの生活と結びついた導入の工夫は、子どもたちが身近に疑問を感じ、持ち、意欲的に取り組む姿勢につながるであろう。                      研究の内容・方法                      ・見通しを持った活動計画の充実(見通しを持った活動計画は、確実に基礎・基本の定着につながり、それはまた科学的な見方の基礎になる。                      ・導入の工夫(事物・現象に直接触れながらの学習課題)</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ                      学習の評価と支援の工夫                      研究の見通し(仮説)                      日々の学習活動の中で、「子どものよさ」を見ていくことは、子どもに寄りそうための支援の工夫との学習につながるであろう。                      研究の内容・方法                      評価委員会による、常に評価内容の項目チェック(学年主任と教科主任による連携)                      子どもに寄り添う評価の工夫(評価方法の実践と点検)                      評価と支援の連携(授業中における支援のみならず、学習環境にみる支援の工夫)</p>
--------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <p>授業と補充・発展学習とのつながりの工夫</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>授業の工夫と支援の方法の実践は、学習の見通しができ、次時の学習につながるるとともに、学習の広がりへとすすむであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>授業と放課後指導並びに家庭学習の連携 (復習による定着と予習)</p> <p>ときわぎルームの活用 (書籍、実験用具、ビデオ等の活用による自学自習)</p> <p>少人数による授業の工夫(発展学習につながる授業の工夫)</p>
--------------------	--

\* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制

<p>学習推進部(メンバー 校長、教頭、教務、研究主任、生活科主任、理科主任、各学年から1名)</p> <p>環境推進部(メンバー 校長、教頭、教務、環境主任、行事担当、KES担当、環境学習担当、児童会担当)</p> <p>フロンティア推進委員会(メンバー 校長、教頭、教務、研究主任、学年主任、教科主任)</p>
---

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が、学習の記録である自分のノートを積極的に活用し、学習の自己評価に役立っている。</li> <li>・理科がおもしろく、理科の力がついたらと自己評価する児童非常にふえた。</li> <li>・一年間のノート指導に伴って、自分で工夫したノートづくりをし、そのノートづくりをもとに、自主的な学習活動に取り組んでいる。</li> </ul>
---

2. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述式の問題に抵抗をしめず児童に、「理由づけができる」「自分の考えが書ける」ようにする。つまり、「科学的思考」の積み重ね。</li> <li>・自分で活用できるノートを作っていく力を鍛える。</li> <li>・理科を基盤にして、他教科とのつながりを大切にしたい取組の推進。</li> </ul>
--

学力等把握のための学校としての取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「理科に対する意識調査」を定期的に行い、児童の理科への思いや願い等の変容をさぐる。</li> <li>・自作テストによる児童の実態把握を明確にし、次段階への学習資料とする。</li> <li>・定期的な教科部会の設定と理科との連携。</li> <li>・ノート指導と話し合い活動の推進。</li> </ul>
--

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発表会(平成15年11月5日 理科、生活科 全市向け発表会)</li> <li>・フロンティアスクールの実践を核にしたHPの作成 (<a href="http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/tokiwano-s/">http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/tokiwano-s/</a>)</li> <li>・少人数教育による理科の実験</li> <li>・習熟度別による算数の学習(基礎学力の定着と学力向上)</li> </ul>
--

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- |                      |  |  |            |  |
|----------------------|--|--|------------|--|
| 【新規校・継続校】            | 1 5 年度からの新規校   | <input checked="" type="checkbox"/> 1 4 年度からの継続校               |            |  |
| 【学校規模】               | 6 学級以下<br>1 3 ~ 1 8 学級<br>2 5 学級以上                   | 7 ~ 1 2 学級<br><input checked="" type="checkbox"/> 1 9 ~ 2 4 学級 |            |  |
| 【指導体制】               | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導<br>一部教科担任制 | <input checked="" type="checkbox"/> T . T による指導<br>その他         |            |  |
| 【研究教科】               | 国語<br><input checked="" type="checkbox"/> 生活<br>体育   | 社会<br>音楽<br>その他  | 算数<br>図画工作 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科<br>家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |  | <input checked="" type="checkbox"/> 有                          | 無          |  |